

300th OKASAN Monthly Anniversary

「岡三マンスリー」25年、通巻300号!!

多数アンカー式補強土壁工法をはじめ様々な工法・商品を全国展開する岡三リビック。その多彩な商品と実績をご紹介するために西暦2000年10月からスタートした月刊冊子「岡三マンスリー」は、A4表裏の簡素な体裁ながら地道に発行を重ね、お陰様で創刊25年、通巻300号という節目を迎えることができました。これもひとえに皆様のご厚情の賜物と心から感謝いたします。

岡三マンスリーはこれからも、新鮮な情報をお届けすべく邁進してまいります。



おことわり
 ・本件サイトの項目選択は「その他」、内容に「プレゼント応募」と明記。
 ・応募は印刷版からのみ可能となっており、ウェブ版からはできません。
 ・当選は発送をもってお知らせと致します。
 ・個人情報保護は厳重に取り扱い、他所への転用等は致しません。
 ・同一事業所からの複数応募はご遠慮をお願い致します。

▼応募用▼
 QRコード



商品の詳細はねんりん家公式サイトへ
<https://www.nenrinya.jp/products/mount.html>

岡三マンスリー通巻三百号を記念して、読者の皆様にどーんとプレゼント! 岡三リビック祖業のひとつコルゲートパイプを思わせる? 形状が特徴的な「ねんりん家」のバウムクーヘンをお届けします。ページ左のQRコードから本件サイトにアクセスして必要な項目を入力頂ければ応募完了。応募頂いた中から厳正なる抽選を実施し、三十名様に提供致します。

300号記念!!
三十名様
バウムクーヘンプレゼント

お国自慢

八戸の伝統文化

九州支店 鈴木 駿斗

今年入社した新人の鈴木です。私の地元の青森県八戸市の伝統文化をご紹介します。同市は「八戸えんぶり」や「三社大祭」などの民俗芸能で知られています。

八戸えんぶりは八百年以上前から受け継がれる独特の舞。毎年二月十七日から二十日まで、八戸市を中心とした地域で行われます。太夫と呼ばれる舞手が馬の頭をかたどった鳥帽子を被って踊るその迫力も含め、他にはない伝統だと思います。

三百年の歴史がある夏の三社大祭は、期間中に百万人以上の人々が八戸を訪れ街がたいへんな熱気に包まれます。国の重要無形民俗文化財やユネスコの無形文化遺産にも指定されるそのお祭り一番の見どころは、神明宮・おがみ神社・新羅神社の神輿に随伴する華やかな山車です。地域二十七の「山車組」が神話や歌舞伎等を題材に毎年工夫を凝らして制作するもので、高さや幅は四メートル、奥行十一メートルほどもあり、仕掛けによってより大きく広がります。

日本の夏らしい懐かしさも感じさせる賑やかな青森・八戸の大祭へ、ぜひ一度お越しください。

岡三リビック商品群

道路・盛土 多数アンカー式補強土壁工法 トリグリッドEX パラリンク フラットパネル RRR工法 EDO-EPS工法
ダイブラハウエル管 **法面・防災** 多機能フィルター ミニアンカーDO PDR工法 サビレス100
維持・管理 ARISライナー工法 SWライナー工法 RCGインナーシリカ Tn-p工法 ローマットHDB
鉄鋼建材 ライナープレート コルゲートパイプ **景観・環境** ロッキーステージ 斜面いどり工法 フォトリックアート

目視点検が容易なコンクリート表面保護

新潟県
出雲崎町

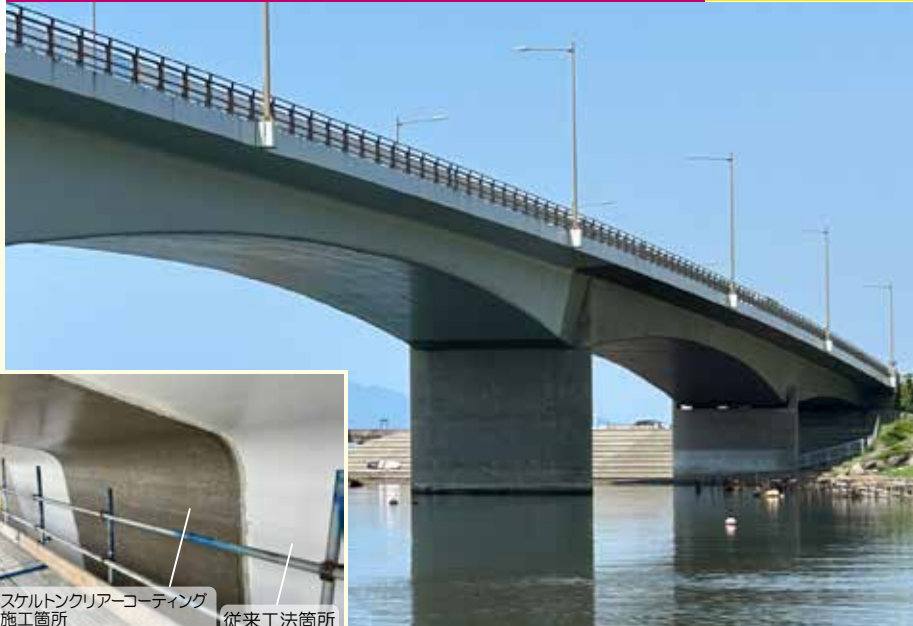
スケルトン防災コーティング

「日本海夕日ライン」は新潟県の沿海部を延長337kmにわたって結ぶ観光道路。このうち、三島郡出雲崎町で入江をまたいでいるのが「出雲崎夕日ライン橋」です。

この橋は1995年の供用開始から29年が経過し、コンクリート塗装の劣化や塩害が認められ、補修設計において、施工性や性能だけでなく、維持管理性に優れた材料が求められました。

本工事現場においては、可視性を保つため、目視点検が可能となることで維持管理性に優れ、且つ耐候性に優れているスケルトンクリアーコーティング（CC-B仕様）が採用されました。

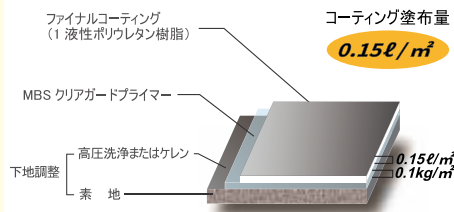
スケルトンクリアーコーティング（CC-B仕様）は2回の塗布で施工が完了する簡便な工法。従来工法と異なり施工後もコンクリート表面が透けて見えるため、異常箇所を容易に特定することができ、点検精度が大



きく向上。改修範囲を絞り込むことでメンテナンスコストが低減されます。

また一方でコンクリート構造物から発生する水蒸気をコーティングの外に逃がし、外側からの水分は遮断する性質を持っており、コーティングの膨れやはがれを抑制します。

施工から15年以上経過した実績のモニタリングで黄変や変色のないこと、優れた耐候性も確認されており、表面保護工のほかコンクリート片のはく落対策工やASR対策工としても実績を重ねています。



工事概要

施主：新潟県長岡地域振興局
工事名：補道更橋901-2-2号一般国道352号
出雲崎夕日ライン橋表面被覆塗替工事
施工会社：株式会社中元組
商品名：スケルトンクリアーコーティング
（CC-B仕様） 1,963m²



とこでなぜ、片田舎に小洒落た洋間付きの古家があったのか。どうやら以前の持ち主も草壁家同様に病氣の家族の療養のために空気の良い里山に移住し、母屋と動線を分けた別棟を設け病室にと考えたものであったようだ。二階への入口が隠し扉式なのは、結核など当時社会的な差別を受けがちな病気だったために、患者の存在を隠す用意を考えていたのかも知れない。

※現在は「LIXIL」へ統合

例えば窓ガラス、風景が波打って見えるようなムラのある板ガラスを解体古民家からかき集めている。風呂や台所のタイルは特注で当時仕様のもので用意した（タイル製造は愛知が地元のINAX※）。風呂釜の大きい方は奇跡的に未使用品を探し当て、小さい方（掛け湯用）は新たに製造したという。

この家は架空でありながら作中こと細かに描かれており、これを昭和初期の工法と材料で現実化したものだ（作品の時代設定は昭和三十年頃だが、既にボロ家なため築二十年以上と逆算）。

いま大阪では万博を絶賛開催中。その前の万博といえど二〇〇五年の「愛・地球博」が思い起こされるが、この時人気を博した展示が「サツキとメイの家」。現在も「ジブリパーク」の目玉として活用されている。

サツキとメイの家

徒然月記

記：編集T

